

\*



# かどや通信

## 第42号

発行日：令和3年1月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

### いにしへの橘を探る 野の花と万葉の会

十一月二十九日に開催された「第十二回野の花と万葉の会」は、鳥羽市の市木でもある橘(別名ヤマトタチバナ)がテーマだった。万葉集には橘を詠った歌が七十二首取り上げられている。回会では「常世の花ー橘」と題し、第四十五代聖武天皇が詠まれた歌をはじめ、「橘」にまつわる様々なエピソードも紹介し、いにしへの人々がどのように「橘」をとらえていたかを万葉の案内人・カヨさんが分かりやすく解説。今回も参加された皆さんは大満足の様子だった。

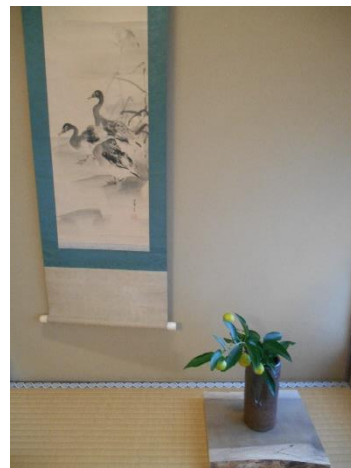
\*\*\*\*\*

今回の経緯と当日の模様をカヨさんに紹介していただいた。

#### ヤマトタチバナに恋焦がれ

今回のテーマ「ヤマトタチバナ」はこの花とお付き合ひの深いNさんからのリクエストです。

私たちスタッフ(まゆみさん、チエミちゃん、私＝カヨ)はこのテーマに近づいたために、まず寄志島・桃取地



区にある原木に会いに出かけました。残念ながら、草が生繁っていて、木の下までは辿り着けませんでした。まゆみさんは、橘の枝を活ける花器探しに奔走し、チエミちゃんは橘の実を煎じてお茶にしたり。私は万葉集漬けになり時空を超えて、ヤマトタチバナに恋焦がれる一ヶ月を過ごしてきました。

会当日のNさんは、ヤマトタチバナをイメージした洋服と、タチバナの果実のネックレスで登場。参加者の皆さんから「ステキー」の声とともに、ぐるりを取り囲まれるなど、大いに盛り上がった中で、会は始まりました。

会場のまん中と床の間には、ヤマトタチバナがしなやか、かつ野趣に富んで活けられていました。さらに、部屋にはヤマトタチバナのアロマが

焚きしめられており、休憩時間にはこれまた香り高いタチバナ茶で喉を潤すことができました。

このようにヤマトタチバナづくしの中で講座は始まり、タチバナを詠った和歌の意味や、タジマモリ(第十一代垂仁天皇の命により「非時香菓(ときじく)のかくのみ＝橘」を求めて常世の国(海の彼方の理想郷)に派遣された人物)、橘氏(飛鳥時代の朝廷の最重鎮の一人)の歴史なども深掘りして楽しんでいただきました。また、Nさんからは、自作の和歌とともにそこに詠まれた胸にかけたネックレスの秘話も披露していただきました。

今年も皆さんとともに、楽しい会に出会えますように。(カヨ)



## 感性がめいめい！ 女流画家の作品展

昨年十二月と本年一月は、鳥羽市在住の女流画家の作品展が続いた。作風は異なるが、二人とも学生時代からプロを目指してただけに、感性が光る作品が並び、来場者をつなげていた。

### 《淡い色使いに癒されて》

十二月は、太田真理子さんの油絵作品展が開催された。

太田さんは、蛸しほの絵を描き続けていたお父様の影響で、幼い頃から油絵に親しんでおり、美術短大に進学した。卒業して家庭を持つてからも、家事や仕事の合間を縫って絵を描き続け、伊勢市展や三重県展に



江戸時代のふすま(左)をモチーフにした作品(右)

出展し、現在に至っている。

今回は、かどやの雰囲気にも合わせて創作した作品をはじめ、花や植物、人物などが描かれた抽象的な作品二十八点が展示された。淡く柔らかな色使いが特徴で、見学者からは「見るだけで心が癒される」「ずっと見ていたい」等のコメントが多数寄せられ、大好評だった。

なお、娘のおおたはるかさんは、三重県をはじめ関西を中心に活動している水彩画家だ。独特の世界観が特徴で、注目の若手画家である。

### 《遊び心を詰め込んで》

新年初の展示は「ナフミのおもちや箱」と題し、沖本直美さんの油絵と段ボールアートが並んだ。

保育士の沖本さんは、学生時代から油絵が好きだったが、四十代後半に一念発起し、保育士をしながら通信制の美術大学を卒業した。現在も空いた時間に油絵を描き、段ボールを使った作品づくりにも取り組んでいる。

今回は、油絵十一点と段ボールアート約二十点が展示された。油絵は、ヒマワリを題材にした百号の卒業



作品をはじめ、花や風景等が鮮やかな色彩で描かれている。段ボールアートは、「風神雷神」をモチーフにした大作に加え、鬼面やキノコ等、思わず顔がほころぶような遊び心溢れる作品が展示されている。



また、沖本さんはチヨコレートの本当のおいしさを知ってもらいたいと、一時期伊勢市でチヨコレート職人として活動したこともあり、土日には特製フレンドしたと

ろける様なおいしさの手作りチヨコレートも販売している。十五年かけて到達したという生チヨコレートは天下一品で、チヨコのリピーターも続出していた。



段ボールで作った鬼面ときのこたち

### 輝け！わが町のアーティスト！

女流画家の作品展が続いた。色使いや作風は全く異なる二人だが、友人の多さは共通していた。二人には、近所さんや知人・友人、職場の仲間などから、個展を祝うお花が続々と届いたのには驚いた。両者とも仕事を持っているためかどやに来られる日は限られていたが、週末ともなれば友人たちに取り囲まれ、マスクごしに楽しいな会話が続いた。新聞の記事を見て駆けつけてくれた幼馴染もいた。子供時代を知る近所さんも「やっぱりあんたやったん！」と、昔話に花咲くこともたびたびだった。

太田さんの親戚の華道家は、何か月も前から構想を練り、彼女の絵を引き立てる花を活けて来てくれた。沖本さんは住まいがかどやと近いこともあり町内の人たちが入れ代わり立ち代わりやって来た。職場の同僚や教え子たちも保護者同伴で来てくれた。

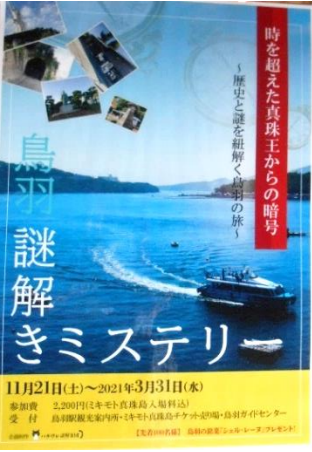
彼らは、普段とは異なる画家としての姿に接し、「わが町のアーティスト」として誇らしげに敬意を表していた。一人とも現在も作品を描き続けている。わが町のアーティストを誇りに思う周りの人たちの応援が、二人の今後の飛躍を後押ししてくれるだろう。

## 若者は謎解きがお好き!

「謎解きゲーム」のブームが、鳥羽市にもやって来た。

昨年三月から「江戸川乱歩館」鳥羽みなとまち文学館」で「暗号が恋を語る街」と題した謎解きゲームが始まった。これは、昨年が推理作家の江戸川乱歩と鳥羽坂手島出身の隆(りゅう)さんの結婚百周年にあたることで実施の運びとなった。

さらに、昨年十一月二十一日からは「時を超えた真珠王からの暗号」歴史と謎を紐解く鳥羽の旅」と題して、真珠王・御木本幸吉に関する謎解きゲームも始まった。これは、御木本幸吉に関わりのある市内の場所を巡りながら謎を解いていくものだ。御木本幸吉は青年時代に、当時隆盛を極めていたかどやを目標にしていたという逸話があることから、かどやも謎解きのルートに含まれている。



日当たりの良い座敷で難問に挑戦

お蔭で、かどやには縁遠そうな若者たちが続々とやって来るようになった。友達同士や

カップル、家族連れ等様々だが、問題が非常に難解で、長時間かどやに座り込んでいたグループも多かった。一日では解くことができず、二週間後に改めて



家族4人で知恵絞る

やってきて、見事謎を解き、晴れやかに帰って行った名古屋の青年もいた。

謎解きゲームは、全国各地で行われており、参加者はゲームに挑戦するために各地を旅するのだそう、かどやにやって来た人たちの大半は県外からだった。謎解きに初めて挑戦したというカップルは「難しかったけど、集中できて楽しかったです。病みつきになりそう」と笑顔で話してくれた。

残念ながらミキモト真珠島がコロナ対策のため、一月十九日から休園することになり、かどやでの謎解きも中止となった。コロナが終息して、若者たちが謎解きで自由に鳥羽を闊歩し、かどやでも彼らを不安なく迎えられる日を待ちたい。

## マリー・アントワネットに捧ぐ!

テーブルコーディネートとフラワーアレンジメントで人気のまゆみ塾が「年末年始を華やかに」と題して十二月五日に行われた。

十二月のテーブルコーデは、プチ・トリアノン(IIベルサイユ宮殿の庭園内に建てられた小宮殿で、フランス王妃マリー・アントワネットが最も愛した離宮の一つ)をイメージしたそうだ。二〇二〇年はマリー・アントワネットがフランス国王ルイ十六世に



興入れして二百五十周年にあたることから、美意識が高くファッショリーダーと



しても魅力的だったマリー・アントワネットをたたえるために選んだテーマだという。常に美を追

求しているまゆみさんならではの発想である。プチ・トリアノンでのクリスマス イメージして、柄の異なるクリスマスプレートを中心に、もみの木やヒムロスギ等の緑とキヤンドルでまとめた華やかな演出がまぶしい。

参加者が作るフラワーアレンジメントは、お花をクレーキ型にまとめたもので、クリスマス後は同じ花束に水引を添えて正月のテーブルにも使える、ゴージャスなのにエコな演出だ。今回も密を避けるため、テーブルコーデでの歴史に基づいた解説と、細やかな指導が大好評だった。



## 《スタッフ総出で大掃除》

年末恒例の大掃除が休館日の十二月十五日に行われ、ボランティアを含むスタッフ九人が、館内組と庭組に分かれて汗を流した。



館内組の五人は例年通り、主婦のスキルを駆使して、普段は手が回らない天井や格子の裏側など隅々までピツカピツカに磨いた。庭組は、イチョウの落葉集めを手分けして行った。毎年ユージさん

がバズーカ砲のような庭専用の掃除機で落葉を吸い取ってくれるが、今回は、なんとまゆみさんがその役を買ってしてくれた。楚々としたまゆみさんには不似合いな重機との奮闘に「随分重いわね」と少し弱音を吐いていた。バズーカ砲以外にも庭組の仕事は力仕事だが、小春日和の穏やかな日に助けられ、落葉集めも順調に終わった。



## 《手作り門松が新年を告げる！》

大掃除が終わり、大晦日が近づくと毎年、フミタカさんといとこのマコトさんの競作の立派な手作り門松が、かどやの玄関に届く。器用な二人の作品によって、



新年を迎える準備は万端だ！門松は、家を訪れる年神さまのための目印といわれており、今年も立派な門松によって、年神様をお迎えすることができた。願わくば、コロナが一日も早く終息し、平穏な日々が戻ってきますように。

今年は、年賀状の送付は中止させていただきますでしたが、本年もよろしくお願いいたします。

## 《コロナ禍による休講のお知らせ》

かどやではコロナ感染防止のため、来館者にはマスクの着用と消毒、健康チェックを行っています。各種教室は講師と相談して開催の有無を決めています。状況に応じてその都度検討しますので、参加ご希望の方は、お問い合わせください。なお、シャドーボールの「みるふい倶楽部」は三月まで中止となりました。

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆  
かどやを有効にご活用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。  
詳細は、かどやへ。  
電話〇五九九二五八六八六

## かどや保存会 令和2年度会員募集中！

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援してくださる会員を募集しています。

昨年度の会員数は311名で、前年度より約50名減少しましたが、令和2年度も令和3年1月15日現在276名と減少傾向が続いています。新型コロナウイルスが社会全体に大きな影を落としている昨今ですが、スタッフ一同皆様の憩いの場所となるよう日々努力を重ねておりますので、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。令和3年度は4月からです。令和2年度の登録がまだの方は、よろしくお願い致します。

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751